

昭和63年度 教職員研究論文の紹介

生き生きした造形活動を通して、 創造的表現力を高める指導

(立体・彫塑で表わす造形的な遊びの分野で)

会津若松市立城西小学校教諭 馬場 泰



粘土による作品 (2年・男)

資料1 立体・彫塑領域における各学年別の内容と基礎・基本となる技術・技法の系統表 (試案)

学年	内 容 (A 表現)	基礎・基本となる技術や技法
1	◎ 粘土で思いのままに表すこと。	○ちぎる ○まるめる ○のばす ○積み上げる ○穴をあける ○おさめる ○広げる
2	◎ 粘土で形や大きさを考えながら表すこと。	○すじをつける ○つまみ出す ○つむぎ出す ○かき出す ○つたく
3	◎ 見たものや想像したものを立体で表すことができるようにする。 ア. いろいろな角度から見て、表すものの形をとらえること。 イ. 粘土でつくるものの感じが出るように表すこと。 ウ. 身近な扱いやすい材料を使い、その生かし方を考えて表すこと。	○つまみ出す ○つむぎ出す ○つたく ○積み上げる ○ひらにする ○ひらける
4	◎ 見たものや想像したものを立体で表すことができるようにする。 ア. いろいろな角度から見て、形のつり合いをとらえること。 イ. 粘土で表すのに適した扱いやすいものを用具として使うなどの工夫をし、つくるものの感じがでるように表すこと。 ウ. 身近な扱いやすい材料を生かし、それに適した用具を使うなど、工夫をして表すこと。	○ちぎる ○まるめる ○のばす ○積み上げる ○穴をあける ○おさめる ○広げる ○すじをつける ○つまみ出す ○つむぎ出す ○かき出す ○つたく
5	◎ 観察や想像をもとにして、彫塑で表すことができるようにする。 ア. 表すものの全体と部分との関係に気付き、立体としての感じをとらえること。 イ. 粘土で表すのに適した用具を工夫して使い、ものの立体としての感じを表すこと。 ウ. 彫りやすい材料の性質を考え、それに適した用具を使い、見通しを立てて表すこと。	○つまみ出す ○つむぎ出す ○かき出す ○おさめる ○板作り ○まき上げ ○パラス ○感 ○表情 ○特徴をつかむ ○用具作り ○彫型 ○ひもを組み合わせる ○糸で切る ○粘土に描く ○輪切りにする
6	◎ 観察や想像をもとにして、彫塑で表すことができるようにする。 ア. ものの立体としての美しさや特徴をとらえること。 イ. 粘土で表すのに適した用具を工夫して使い、ものの立体としての美しさや特徴を表すこと。 ウ. 彫りやすい材料の性質を考え、それに適した用具を効果的に使い、見通しを立てて表すこと。	○ちぎる ○まるめる ○のばす ○積み上げる ○穴をあける ○おさめる ○広げる ○すじをつける ○つまみ出す ○つむぎ出す ○かき出す ○つたく

*この表は、学習指導要領のA表現-2の内容を基本としている。あくまでも、現実の子どもの成長、発達を見つめ指導する上での手がかりとして役立てようとするものである。

一、はじめに
子どもに限らず、我々大人でも生まれつきあの軟らかい土や粘土の得も言われない感触に対して本能的に親しみも持っている。かつて、子どもたちはちよつとした水たまりでも小さな砂場でも、見つけたい服の汚れなど意に介さず、すぐ水遊び、どろんこ遊びを始めたものである。
ところが、最近の子どもたちは生活環境の変化に伴い土と体ごとぶつかつてきつてくる。このような時だからこそ、子どもたちにとつぷりと土遊びをさせたいと考えた。

この研究では、まず、土や砂そのものとたつぷり触れ合わせることに由り、土粘土との印象的な出会いをさせる。そして、感じたことや考えたことを思いのままに土粘土で作れる確かな表現力を身に付けさせることをねらいとしている。(以後、土粘土と言わずに粘土という。)
二、主題(標記) 設定の理由
本研究主題は「表現意欲を原動力として自分の目、手、頭、体を十分に働かせて生き生きと造形活動に取り組み、創意工夫を凝らしながら作品を完成させ、造形する喜びを味わい、創造的表現力を高めていく子どもの姿」を目指して設定した。それには、次の三つの研究の視点があつた。
○ 表現意欲に支えられて、主体的に

造形活動に立ち向かう子どもの姿を大切に。
○ 表現の意図や願いをしつかり持つて自分の力で取り組む子どもの姿を大切に。
○ 子ども一人一人の個性的な表現の良さを認め、夢中になって立ち向かう子どもの姿を大切に。
三、児童の実態
ほとんどの子どもは、図工が好きである。クロッキーを一年生の時から続けてきたので、絵画に対して抵抗感を持っていない子どもはそう多くない。彫塑の面では、男一名、女一名が土遊びや砂遊びが嫌いだと言っている。どろんこ遊びで積極的に対象にかかわっていくのは男子に多いようである。

四、研究の目標

立体・彫塑、造形的な遊びにおける技術、技法の基礎・基本を明らかにし、それを学習過程に位置付けた指導過程を作成する。

五、研究の仮説(見通し)

粘土彫塑の具体的な技術の基礎・基本を明らかにし、学習過程に明確に位置付けた指導過程を作つて指導すれば、創造的表現力が高まるであろう。

六、研究の実際

(一) 実践題材 1、土遊び